

非常措置下の劇場

高 谷 伸

決戦非常措置による大劇場の閉鎖は發表と實施との期間が短かつただけ當事者にとつて青天霹靂の感を抱かせたかも知れないが、苛烈なる戦局下に於ては寧ろ遅かつた程當然の措置である。

日本の演劇は歌舞伎の創始期には風俗上の弊害から抑壓禁止を屢次蒙つたし、演劇形態確立後も幕府の施政方針によつて種々の制限を蒙つてゐる。しかし、天保改革以後明治に及んでは文化昂揚の波に乗つてあまりに順潮であつた。支那事變は勿論大東亞戦争の段階に入つても多少の制限はあつたが殆んど平常と差のない興行の續けられてゐたことは全く國家の恩恵である。それを考へると部分的に再考の餘地はあつても非常措置に就て云爲することなく、この機會を轉用して新日本演劇の起點とする希望を持たねばならない。同時にその起點は舊演劇に取つては終點である。歌舞伎のよさは或はこの際に減損滅失するかも知れない。同時にその時代に棄てられるべき部分は當然整理されて行く。私たちはこの歌舞伎のよさを保存するか、よりよき道へ活用するかによつて、新しい日本演劇、それは歌舞伎的特徴の潜在する新國民演劇が生誕されるのを期待する。

天保十三年の水野忠邦による劇壇に對する措置には現在と對照して示唆に富んだ點が多い。第一黒船來航の情勢は空襲必至の現況と較ぶべくもないが一部では昌平三百年に亘つた結果としてそれ以上の脅威を感じたことは史書に散見する所である。奢侈の禁止は天保改革の根本條件で生活の飽くなき慾求に對する反動は現下の戦局による國民自覺の要求とは別としても人間の贅澤を抑止すべしとする點では全く同一である。天保十二年十月中村座失火、市村座と操り座の類焼を原因とする移轉命令は防火上の都市計劃による一種の疎開と風紀上の隔離である。後者は別として前者の場合は劇場を市中樞部から郊外近くに移轉させることによつて江戸名物の火災による被害の制限を試みた點で共通點がある。其他俳優給金の最高額決定、觀劇料のマル停、所屬俳優の引抜き禁止等、各種の點で一脈通するものがある。

たゞ現在と反對なのは小劇場の禁止で江戸では公認三座の大劇場以外の非公認劇場の取崩しと、三ヶ津以外の移動出演の禁止である。この點は都市の文化性に拍車を加へ、歌舞伎の質的向上の助長になつてゐるのは、非常時感が結局早急に切り抜け維新の黎明を迎へ外敵侵寇の危機が速かに去つたおかげである。現下の未曾有の國難に直面する状態に比べてはあまりに平穩に過ぎ得たと言ひ得る。

従つて、維新後の文化施策の一端として演劇面の確立と、

名優の輩出と向上運動の發展によつて歌舞伎は豫期以上の盛況をさへ示すに至つたのである。

ところが現在の戦局は勝ちぬくために國民のすべてが戦争のために總力を結集せねばならない時である。演劇の質的向上は戦争に勝つた上のことである。といつて演劇の使命のすべてが無用になつたのではない。藝術上の最高使命はさしあたり後廻しになつても、戦力増強のために働くものゝ心の潤滑油としての慰樂と、慰樂を通じての戦意昂揚、國民精神の發揮といふやうな指導のために一役持たねばならなくなつてゐる。これは平時でも必要ではあるが、必要度が入れ變つただけである。演劇使命の順位變更が生じたのである。

その結果、全体として都市中心だつた演劇分布状態が再配置せられる結果として、地方人や産業人の觀劇眼の養成により一斑水準の向上を見ると同時に、最高標準は俳優分散の結果低下を見るのは止むを得ない。これも結極は觀客層の變貌による新時代の演劇發生の契機たり得たなれば望外の收獲となる譯である。

ところが、この際マル特の立場に置かれたのが人形淨瑠璃の殿堂文樂座である。これは古典藝能であり日本固有の演劇形式といふ獨自の境地によることは勿論だが、小劇場風の機構と地域的にも道頓堀千日前の繁華街から離れてゐるといふ有利性も加味されてゐると考へられる。今までの不利が逆に

有利になつたのであるが、それは末梢的理由で根本はやはり前二者である。獨特の演劇形式といふ點では問題は無いが、現在の文樂座が古典藝能としての使命を十分に發揮してゐるかといふとまだ／＼考へねばならない點が多い。

藝術院賞を獲た古靱大夫の藝は古典の本道に苦心の性格描寫を加へて一家の藝格を築き上げそれを補佐する清六の三味線もまた藝の力を感じさせるし、人形の榮三や文五郎の技能も斷然優秀なものを持つてゐることは誰しも認める所である。しかし、興行企劃や後進の輩出といふ點で特に興行繼續の恩恵に應え得られてゐるであらうか。他の劇場の閉鎖と共に文樂へ觀客の殺到せず普通よりやゝ良といふ興行成績だつたことは、第一に國民の自肅もあらうが、觀覽料の低下による觀客吸收の效果の薄かつた理由として、國民娛樂でなく古典藝能として觀賞者に或る限度の存在を證明するものであつてその點能樂と歌舞伎の中間に位置するものと考へられる。

既に古典藝能として特殊な立場にある以上商業演劇的企劃は揚棄されねばならない。研究所的方法を加味し、制限時間内の公演に於ても切場を活かすためには端場を添えて語り込み聞き込んで行けるやうに、まとまつた一段を出すとか、千本櫻なれば嵯峨の庵室、木の實、餅屋の一つの連繫の下に出すといふ風に、菅原なれば傳授場と寺小屋の一組、加茂堤と車場、賀の祝、天拜山の一環と分けるといふやうな類でもつ

と強調し、他の狂言にも及ぼすべきでさうすれば一部の觀者の難解といふ非難にも應へられるのである。文樂座の客の難解といふ言葉の底には、藝能觀實力の不足といふよりは筋さへわからないといふ不平が籠つてゐることが多い。

更らに、この古典の殿堂に國民娛樂的要素を加へるためには、劇映畫の前に短篇ニュース映畫の添えられるやうに時局下の新曲を加へることである。これは既に相當普通興行の間に試みられてはゐるが、今まであまりに間に合せの新曲のみであつた。獅子は兎を殺すにも全力を用ゐる。小曲たりともお茶漬では良心的ではない。いつも西亭氏の作詞作曲では問題にならない。小器用に節の都合のよい文章を書いて行く作詞で後世に残る作品が出る筈がない。そんな作品をこの時局は要求してもゐない。

「健全思想と淨瑠璃」本誌の重任

樋口虎之助

大阪の郷土藝術として天下に誇る淨瑠璃義大夫節が時代の潮流に合致せざるか年々衰頹の兆あるを嘆き其の風俗習慣を始め忠君愛國孝悌友信、日本國風の振興を謀り淨瑠璃義大夫節の進歩發展に努むる事明治三十二年一月以來大凡そ五十年間、然も何等貢獻する所なかりしは實に自の微力寧ろ無力を

新曲の場合は小曲と雖も文人の刻苦の一篇を相當の作曲者が全力を盡くして當るものでなければならぬ。それでも一作一作が後傳に傳はるとはいへない。近松とてその全作品が今に傳承上演されてゐる譯ではないが、作曲者上演者と相俟つて名作は不朽の光を放つてゐる。同時に多作したからとて傑作が出るとは言はれないから、一作者に偏せず一作曲者に限らず、廣く人材を求めて大東亞戰爭を契機とした一作品を後世に残す意氣を持つて當るのも必要な企劃の一面である。演技者の精進に就ては言ふ迄もない。各人が職域奉公、藝のために倒れるとも前線の將兵の生命力を自分の生命とし、研究に發表に懸命に働くつもりで勉強を重ねてこそ、特に興行存續を許された文樂座に働くものとして恵まれた立場にあるものゝ本分を果すことができるのである。

恥ぢざるを得ず、偶大東亞戰の勃發に遭遇し全國民の總力を要する國家の興廢浮沈に關する重大難關と認め斯道唯一の機關と自任するにも拘らず、國家の大事に殉じ潔く廢刊を届出たり、然るに或方面に於ては二三種の淨瑠璃宣傳の月刊物あり、昭和の聖代、國を賭したる大戰爭の眞最中、決戰態勢の頂點に於ては區々たる規則に拘泥せず、斷然一齊に緊肅すべきは論を俟たざる所なり、斯の重要時機にありては東京も大阪も臺灣も朝鮮も齊しく帝國皇民なり、此の古今未曾有の